

ふれあいだより



鳥取大学附属特別支援学校 H23. 9. 30

夏の同窓会（ふれあいサマークラブ）について

同窓会担当 本城 睦子

7月30日（土）の午後、夏の同窓会を開催しました。43名の参加者があり、8つの講座の中から自分が学びたい講座を2つ選択して受講し、みんなで楽しいひとときを過ごしました。

今回開催した講座は、①しゃんしゃん・太鼓 ②おしゃれ ③マジック ④和菓子づくり ⑤ソフトバレエ ⑥バルーンアート ⑦お茶 ⑧ちぎり絵です。

久しぶりに顔を合わせる喜びに加え、向上心を持って参加される姿勢を大変嬉しく思います。これからも様々な体験の場を提供できればと思います。来年もまたお会いし、みんなで楽しみましょう！



＜閉講式にて講座の感想発表＞

みんなで心と体づくり（ふよう教室）

特別支援教育コーディネーター 吉田 富貴

本校の職員が【感覚統合】という観点で、小学部を中心に取り組んできた「ふよう教室」も今年で7年目になりました。様々な遊びを通して、体づくりだけでなく、心の発達にも主眼をおいた取り組みをしています。現在、県東部地区の園児や4年生以下の小学生など16組の親子や教員、および支援者が参加しています。遠くは、兵庫県北部や倉吉市からの参加もあります。今年は新たに5組の親子の参加がありました。

「ふよう教室」では、様々な遊具の中で、子どもたちのニーズを満たすような遊びを提供し、子どもたちが主体的に楽しんで遊ぶことができるように本校スタッフが支援しています。上手く遊べない子どもさんには、具体的に遊び方を支援していきます。継続して参加している子どもさんほど、ダイナミックに楽しんで活動する姿が見られます。

これからも、発達の原動力である遊びを、参加している子どもたちが満足し、様々な感覚を体験していけるように支援していくとともに、地域のセンタ一的役割として相談活動の充実も図っていききたいと思っています。



がんばったね！「なかよし運動会」 （小学部）

小学部主事 児島 陽子

9月16日（金）に東部地区の特別支援学校や特別支援学級の児童が、コカ・コーラウエストパークに集まり、「なかよし運動会」が開催されました。小学部の子どもたちは、夏休みが終わってから、「なかよし運動会」を楽しみに、一生懸命に練習に取り組んでいました。

当日は、並んで自分の出番を待っている間、「よーし、がんばろぞ！大丈夫！」とつぶやいたり、お互いに「がんばろうね。」と声をかけ合ったりする姿が見られました。また団体種目の「おおだまころがし」では、2人組になって大玉をころがすのですが、練習の時から、「〇〇くん、一緒にしようね。」「こっちに並ぶよ。」と上級生が下級生を誘ったり、下級生のころがすスピードに合わせて大玉を転がしたりする姿が見られ、とても感心しました。レースは最後のアンカーまでもつれ、白兔養護学校のチームと一進一退の名勝負！最後は6年生ペアが頑張って走り、見事1位になりました。みんなで万歳をして、笑顔でハイタッチをしていました。小学部全員で力を合わせて頑張った喜びや達成感を共有し、とても素敵な「なかよし運動会」となりました。



小学部では、日頃から縦割りグループの活動を取り入れ、クラス以外の友だちとも関わる機会を持つようにしています。そんな中で、自然に上級生が下級生を気遣い、下級生が上級生にあこがれを持って活動する姿が見られるようになりました。そんな場面が「なかよし運動会」でも見られ、とてもほほえましく思いました。

専攻科の紹介

専攻科主事 杉本 晃久

高等部専攻科設置から今年で6年目になります。今年度は1年生4名、2年生6名の10名が学んでいます。専攻科のめざす生徒像は、「社会へ関心を持ち、様々な人と関わりながら、積極的に社会へ参加しようとする青年 ～まずやってみよう自分を見つめ 広い社会へとびだそう～」です。青年期の自分づくりを大切にしながら、今年度も様々な活動に取り組んでいます。

「くらし（食）」では、毎週金曜日の給食をカットし、自分たちで相談してメニューを決め、スーパーマーケットに行き材料を購入し、昼食を作ります。調理後、反省を行い、翌週には反省を踏まえて修正・工夫を加えてもう一度同じメニューに挑戦します。「くらし」では後期に、専攻科合宿（11月）や研修旅行（12月）も予定しています。自分たちで計画し、必要に応じて外部の方とも交渉しながら学習を進め、予定を立てていきます。「労働」では、1日を通して働く学習をします。今年度は校内清掃に加え、校外の「友愛寮」にも出かけて定期的に清掃活動などを行ったり、福部町でらっきょうの根切りや梨の袋かけなどの就業体験も行ったりするなど、労働体験の幅を広げています。その他自分が決めたテーマに沿って調べ、研究・発表を行う「研究ゼミ」、休日の過ごし方を学ぶ「余暇」、将来の生活に必要な知識を学ぶ「教養」などの時間もあります。

こうした学習の中で、専攻科では「自分で、自分たちで（七転び八起き）」「見守り支援（大人は心配して先回りしない）」「人との関わり（人との出会いや会話・コミュニケーション）」などの点を大切にしています。今後も自分で、自分たちで考え、悩みながらも問題解決するプロセスを大切に支援していきたいと思えます。

